

<第4050回>

目的地：御嶽山・赤沢自然休養林（臨時休園の為「田立の滝」に変更）

担当者：田名部大一・眞鍋美和

実施日：2020年7月31日（金）～8月2日（日）

形式：小屋・旅館泊（レンタカー利用）

費用：¥35,000円

参加者：4名 富平一雄・中村博一・眞鍋美和（SL）・田名部大一（PL）

行程：

7月31日 天気：晴れ

新大阪（7：30）⇒（9：00）多賀 SA（9：30）⇒（10：55）恵那峡 SA（11：10）⇒（11：40）道の駅賤母（12：30）⇒（12：55）田立の滝駐車場（13：00）⇒洗心の滝（13：50）⇒（14：50）田立の滝駐車場（15：10）⇒（16：10）木曽福島駅（16：15）⇒（17：00）岩井屋旅館（泊）

8月1日 天気：晴れ

岩井屋旅館（8：30）⇒（8：50）ロープウェイ駅鹿の瀬駅（9：00）⇒（9：10）ロープウェイ駅飯森駅（9：25）⇒（9：40）休憩（9：45）⇒（10：10）休憩（10：15）⇒（10：35）休憩（10：40）⇒（10：55）八合目女人堂（11：15）⇒（11：30）休憩（11：35）⇒（12：00）休憩（12：05）⇒（12：20）休憩（12：25）⇒（13：16）石室山荘昼食（13：35）⇒（14：30）休憩（14：35）⇒（16：30）五ノ池小屋

8月2日 天気：晴れ

五ノ池小屋（6：40）⇒（7：45）賽の河原（7：55）⇒（8：42）剣が峰（8：55）⇒（9：30）石室山荘（9：45）⇒（10：20）休憩（10：25）⇒（10：45）八合目女人堂（11：05）⇒（11：52）一の又小屋（12：07）⇒（12：15）ロープウェイ飯森駅（12：30）⇒（12：40）鹿の瀬温泉（入浴）（13：30）⇒（14：10）くるまや国道店昼食（15：10）⇒木曽福島駅（15：40）⇒（20：00）新大阪〔解散〕

感想：

第一日 新大阪発、二度のドライバー交代を重ね、「道の駅賤母」で昼食とする。「道の駅賤母」には、「東山魁夷 心の旅路館」が併設されており、食後にリトグラフ等を鑑賞する。当初予定の赤沢自然休養林は、アクセスが7月豪雨以降復旧されず、「田立の滝」に変更する。「田立の滝」は、溪谷に掛かる滝の総称で、観光協会に確認したところ、整備されスニーカーでも可能との回答であったが、木道はかなり傷んでおり、傷んだ足元にガイドロープ1本の木橋が現れ、目標の「天川滝」を目前し「洗心の滝」で引き返すこととなった。（1名はすでに自重される）「槍穂よりこちらの方が怖い」との声もあり、確認不足で一部メンバーには怖い思いをさせてしまった。また、駐車場には、「熊に注意」の看板があり、地区内で襲われたとの表記もあり、各所に熊除けのベルが設置されており、緊張感のない我々は、もっぱら山中では写真スポットと使用していた。熊注意の看板は各所で見かけるが、実際に熊を見かけることは稀であり、この後乗車直後、綴れ織りの道を下る途中、猛ダッシュする子熊が前を二度横切る。母熊は見ず、車中からの子熊はなかなか可愛い。旅館に到着後、「やまゆり荘」で赤湯の温泉に入浴後夕食を取る。初日にも拘らず盛り上がる。

第二日 朝食後、御岳ロープウェイ「鹿の瀬駅」に向かい、2,150mまで一気に高度（580m）を稼ぐ。日頃の訓練不足と寄る年波か登りで苦しみ、また、意外と厳しい下りに時間を費やし、山頂ピストンは翌日に廻したにも拘らず、16時五ノ池小屋着となる。宿泊人数は24名、到着時は、手指の消毒、うがい、マスク着用が求められ、食事はテラス使用を含め間隔を取って12名ずつ、窓は開放、トイレ使用後は、石鹸の手洗いとアルコール消毒、部屋は2m間隔に仕切りが設置され、半個室対応であった。食事内容は、定番の手作り味噌の烏鍋、天候も良くテラスで食事を取る方も見受けられ、食後は窯焼きピザ・ワインも提供される。幻想的な夕日をしばしの撮影会、気が付けば小屋の従業員も撮影中、夕日は久しぶりとの事であった。

第三日 今日夏空、北・中央アルプスを眺めた後朝食、昨日のルートに戻り、7月1日より規制が解除された「御岳山剣が峰」へ向かう。前日苦労したガレ場も難なくクリアー。分岐で荷物をデポし山頂へ向かう。神社は再建され、新たに慰霊碑とあわせ、シェルターが設置されるも、剣が峰頂上山荘は無残な姿を残す。快調に下るも、日曜日とあって登山者は多く、すれ違いを容易にするため、2名ずつに分かれて下山。ここでもソーシャルディスタンス。難なく一の又の小屋を通過しようとするも、登りの雑談を覚えていた方から、きな粉餅を食べたいとのリクエスト。ロープウェイを目前にして最後の休憩とする。下山後は、鹿の瀬温泉で汗を流し、木曽福島で遅めの蕎麦昼食をとり、一路新大阪へ向かい解散、反省会

となった。

特 記：

- ・ヘルメット推奨であったが、ほとんどが、ヘルメット着用または持参であった。
- ・ヘルメットレンタルは、木曾福島駅前の木曾御岳観光局（1回2,000円）で可能。
- ・開田高原では、「東京等感染の広がっている都道府県の人との接触は注意するように」との放送が流れ、マスク着用は、他府県のみであった。
- ・小屋・ロープウェイ等では代表者のみではなく、全員の氏名・住所・連絡先が求められた。今回は予め登山届の一部をコピーし対応した。
- ・中津川からの高速道路、日曜の帰阪は例年どこかで渋滞が発生したが、本年は一切なかった。